

第105回日本精神神経学会総会

シンポジウム

Dementia；痴呆（症）か，認知症か

山口 成良（医療法人財団松原愛育会松原病院）

呉秀三は、「精神病ノ名義ニ就キテ」と題する論文の中で、癡狂の文字を我精神病学の名義中より駆逐することを試み、名義として、老耄狂 Dementia senilis の代りに、老耄性癡呆を挙げている（神経学雑誌，1909）。林道倫らによる神経精神病学用語統一委員会試案では、Dementia senilis（老年痴呆）としている（精神誌，1937）。前回の精神神経学用語集（1989）では、痴呆 dementia (E)，Demenz (D)，démence (F) となっている。

このように、従来は、dementia を痴呆と訳出することにおいて抵抗を感じていなかったが、2005年（平成17年）、厚生労働省から行政用語として、「痴呆」を「認知症」とする用語の見直しの周知徹底を図ることが通知されてから、にわかに諸学会において、「痴呆」の呼称問題が論議されるようになった。日本痴呆学会では、第24回学術集会（2005年10月）の総会において、「日本痴呆学会は日本認知症学会と名称変更する」との声明文を発表した。

ひるがえってみるに、アメリカ精神医学会が DSM-IV（1994）を出版した時に、すでに dementia の基本的特徴は、多彩な認知欠損の出現である（The essential feature of a dementia is the development of multiple cognitive deficits）と述べられていた訳であるから、dementia を認知症と訳しても、特に間違っているとも思われない。中国では、dementia に対して、従来癡呆症という用語を使っていたが、最近、Hong Kong Journal of Psychiatry では「失智症」と呼称変更している。日本では行政用語としてのみならず、学術用語としても認知症という用語を使用すべきであると思われる。

＜索引用語：癡呆，痴呆，認知症，失智症，認知＞

I. はじめに

第102回日本精神神経学会（福岡）のワークショップ「精神神経学用語の呼称変更はどう対応すべきか」において山口¹⁴⁾は、「術語の訳には正確さという視点とともに、患者・家族への侵襲性に対する配慮も必要という視点がある」と述べた。今回演者に、松下昌雄用語委員会委員長より、「dementia；痴呆（症）か，認知症か」というテーマが与えられたので、論ずることとする。

II. Dementia；痴呆（症）か，認知症か

今回改訂された「精神神経学用語集」（2008）¹¹⁾では「認知症，痴呆（症）：dementia (E)，Demenz (D)，démence (F)」となっている。

今回のシンポジウムで、演者に表題のごときタイトルが与えられたのは、すでに介護保険法等の一部を改正する法律（平成17年法律第77号）が平成17年6月29日に公布され、「痴呆」の用語の見直しとして「認知症」の用語に改めるように通達され、すでに行政用語としてのみならず、一般的に定着しているこの時に、dementia の訳語として痴呆（症）を学術用語として存続させるべきか、論じて欲しいとの希望があったものと推察される。

1. 痴呆

呉⁷⁾は、「精神病ノ名義ニ就キテ」と題する論文の中で、「是故ニ精神病ノ名稱ニ就キテハ成ル

表1 日本精神神経学会用語集一覧 (dementia に関して)

1. 神経精神病学用語統一委員会試案 (精神経誌, 41 巻 4 号附録, 1937)
Dementia senilis 老年癡呆
2. 精神医学統一用語集 (精神経誌, 61 巻号外, 1959)
dementia (E) 痴呆
3. 神経学統一用語集 (精神経誌, 64 巻号外, 1962)
dementia (E) Demenz (D) 痴呆
4. 精神医学用語集 (1970)
dementia (E) 痴呆
5. 精神神経学用語集 (1989)
痴呆 dementia (E), Demenz (D), démence (F)
6. 改訂 6 版 精神神経学用語集 (2008)
認知症, 痴呆 (症) dementia (E), Demenz (D), démence (F)

表2 日本痴呆学会名称変更についての声明文の発表

声 明 文	
日本痴呆学会は、第 24 回学術集会の総会において、学会員の総意として以下の声明をだすものである。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本痴呆学会は日本認知症学会と名称変更する。 2. 本学会は、これまで認知症研究と医療の進歩発展をはかってきたが、これを機に、広く社会に向けて認知症の正しい理解を訴えるものである。 	<p>平成 17 年 10 月 1 日</p> <p>日本痴呆学会 理事長 井原康夫 第 24 回学術集会大会長 森 啓</p>

ベク世人ノ注目ヲ惹クガ如キ文字ヲ避クルコト必要ナリ サレバ、吾人ハ癡或ハ狂ト云ヘルガ如キ世人ニ一種不快ノ感覚ヲ與フル文字ヲ避ケント欲シタルコト数年来ナリキ」と述べている。そして、癡狂の文字を我精神病学の名義中より駆逐することに決定して、従来 Die Dementia senilis につけられていた老耄狂を、老耄性癡呆に、Die Dementia paralytica につけられていた麻痺狂を、麻痺性癡呆に名義を変更している。

その後、日本精神神経学会から発行された用語集では、表1に示したごとく、dementia (E) の訳には、癡呆、痴呆の呼称が用いられており、改訂 6 版において、初めて認知症、痴呆 (症) という用語が用いられている。

字通¹²⁾によれば、痴は「旧字は癡に作り、疒+疑。疑は人が後ろを顧みてたち迷う意で、神思足らず、疑惑猶予して決しがたいことをいう。その病的な状態にあるものを癡という」とある。痴呆については、ぼけとしてあり、呆については「保の省字。元の俗語で、おろかなことを呆憊 (たいろう) という。」とある。

2. 認知症

日本医事新報の No. 4183 (2004 年)⁹⁾によれば、厚労省の「痴呆に替わる用語に関する検討会」(座長: 高久史麿日本医学会長) は 2004 年 6 月

21 日、省内で初会合を開き、その中では長谷川和夫委員 (高齢者痴呆介護研究・研修東京センター長) らから、呼称の候補として「認知症」などが提案された、との NEWS が報じられている。更に、日本医事新報の No. 4211 (2005 年)⁹⁾には、厚労省の「痴呆に替わる用語に関する検討会」では、「痴呆」に替わる新たな用語は「認知症」が最も適当とする報告書をまとめ、中村秀一老健局長に提出した、と報じている。また、通常国会に提出する予定の介護保険制度改正法案の中で、法律用語としての「痴呆」を改正する方向で検討を進める、と記してある。

そして、介護保険法等の一部を改正する法律 (平成 17 年法律第 77 号) が 2005 年 6 月 29 日に公布され、「痴呆」の用語の「認知症」への見直しに関する部分については、同日施行された。これを受けて、日本痴呆学会は 2005 年 10 月 1 日、第 24 回学術集会の総会において、表 2¹⁰⁾のごとき声明文を発表し、日本痴呆学会の名称を日本認知症学会に変更した。

認知とは医学大辞典⁶⁾によれば、「知覚・判断・決定・記憶・推論・課題の発見と解決・言語理解と言語使用などのように、生体が経験的に獲得している既存の情報に基づいて、外界の事物に

関する情報を選択的に取り入れ、それによって事物の相互関係や一貫性、真実性などに関する新しい情報を生体内に生成・蓄積したり、外部へ伝達したり、あるいはこのような情報を用いて、適切な行為選択を行ったり適切な技能を行使することに関わる生体の能動的な情報収集・処理活動を総称する言葉である。認知機能とは、知覚から判断に至るすべての情報処理の過程を包括し、この過程には注意機能、照合機能、統合機能などの様々な高次脳機能が関与する」と説明している。

アメリカ精神医学会の DSM-IV-TR (2000)⁴⁾ によれば、「認知症の基本的特徴は、記憶の障害と以下の認知障害のうち少なくとも1つを含む多彩な認知欠損の出現である：失語、失行、失認、または実行機能の障害。認知欠損は職業的、社会的機能の障害を引き起こすほど、重症でなければならないし、病前の高い機能水準からの低下を示さなければならない。(The essential feature of a dementia is the development of multiple cognitive deficits that include memory impairment and at least one of the following cognitive disturbances: aphasia, apraxia, agnosia, or a disturbance in executive functioning. The cognitive deficits must be sufficiently severe to cause impairment in occupational or social functioning and must represent a decline from a previously higher level of functioning.)」とある。すなわち、dementia (認知症) とは多彩な認知欠損の出現である。

III. 考 察

dementia の訳として、今まで「痴呆」の用語が使われてきたが、2005年(平成17年)の厚労省の通達から、「痴呆」の用語の見直しとして「認知症」に改めるよう通知があり、日本痴呆学会ではいち早く、日本認知症学会と名称変更した。

アメリカ精神医学会の DSM-III (1980)¹⁾ では、「dementia の基本的病像は、知的能力の喪失で、社会的または職業的機能を十分妨げるほど重篤なものである。欠損は多面的で、記憶、判断、抽象

的思考、その他の高次皮質機能の障害を含み、人格や行動の変化もまた生ずる。(The essential feature is a loss of intellectual abilities of sufficient severity to interfere with social or occupational functioning. The deficit is multifaceted and involves memory, judgement, abstract thought, and a variety of other higher cortical functions. Changes in personality and behavior also occur.)」と記載している。DSM-III-R (1987)²⁾ でも、「dementia の基本的病像は、短期および長期の記憶障害が抽象的思考の障害、判断の障害、その他の高次皮質機能の障害、人格変化を伴っていることである。(The essential feature of Dementia is impairment in short- and long-term memory, associated with impairment in abstract thinking, impaired judgment, other disturbances of higher cortical function, or personality change.)」と DSM-III とほぼ同内容である。

ところが、DSM-IV (1994)³⁾ では、「dementia の基本的特徴は、記憶の障害と以下の認知障害のうち少なくとも1つを含む多彩な認知欠損の出現である：失語、失行、失認、または実行機能の障害。(The essential feature of a dementia is the development of multiple cognitive deficits that include memory impairment and at least one of the following cognitive disturbances: aphasia, apraxia, agnosia, or a disturbance in executive functioning.)」と記載し、dementia を従来の知的能力の喪失 (a loss of intellectual abilities) とするよりも、多彩な認知欠損の出現として、認知障害 (cognitive disturbance) としてとらえることを提案し、これが既述のごとく、DSM-IV-TR⁴⁾ にも踏襲された訳である。すなわち、アメリカ精神医学会では、1994年から dementia を認知障害として、捉えていたのである。

WHO の ICD-10 (1992)¹³⁾ でも、「Dementia (F00-F03) は脳疾患による症候群であり、通常は慢性あるいは進行性で、記憶、思考、見当識、理解、計算、学習能力、言語、判断など多くの高

次皮質機能が障害される。意識は混濁していない。認知機能の障害に情動のコントロール、社会行動、動機づけの低下を伴うことが多いが、それらのほうが先行することもある。(Dementia (F00-F03) is a syndrome due to disease of the brain, usually of a chronic or progressive nature, in which there is disturbance of multiple higher cortical functions, including memory, thinking, orientation, comprehension, calculation, learning capacity, language, and judgement. Consciousness is not clouded. The impairments of cognitive function are commonly accompanied, and occasionally preceded, by deterioration in emotional control, social behaviour, or motivation.)」と記載しており、dementia を認知機能の障害 (the impairment of cognitive function) と解釈している。

一方、漢字を使う中国では、これまで dementia に対して「癡呆症」という用語を使っていたが、本年 (2009年) の Hong Kong Journal of Psychiatry⁵⁾ をみると、dementia に対して「失智症」という用語が用いられており、呼称変更したものと思われる。その理由については不明である。

以上考察してきたように、dementia に対する呼称としては従来、癡呆、痴呆の用語が用いられてきたが、2005年の厚労省の通達から認知症という用語が用いられている。Dementia が高次皮質機能の障害としての認知機能障害 (the impairment of cognitive function) を意味するとすれば、認知症という呼称も一応理に適っているものと思われる。

IV. 結 論

アメリカ精神医学会が DSM-IV (1994) を出版した時に、すでに、dementia の基本的特徴は多彩な認知欠損の出現である (The essential feature of a dementia is the development of multiple cognitive deficits) と述べていた訳であるから、dementia を認知症と訳しても、特に間

違っているとも思われぬ。一方、癡呆は癡 (認知障害) から呆 (知能減退) になるという意味で解釈すれば、癡呆症という用語を中国と同じように使っても間違いではないが、すでに中国でも失智症という呼称変更があるとすれば、癡呆、痴呆の呼称にあまりこだわる必要もないと思われる。現在わが国では認知症という用語が一般に広く用いられている時、行政用語としてのみならず、学術用語としても認知症という用語を使用してもよいのではないかと思われる。

文 献

- 1) American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Third Edition. American Psychiatric Association, Washington, D.C., p. 107, 1980
- 2) American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Third Edition, Revised. American Psychiatric Association, Washington, D.C., p. 103, 1987 (高橋三郎訳: DSM-III-R 精神障害の診断・統計マニュアル. 医学書院, 東京, p. 96, 1988)
- 3) American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fourth Edition. American Psychiatric Association, Washington, D.C., p. 134, 1994 (高橋三郎, 大野 裕, 染矢俊幸訳: DSM-IV精神疾患の診断・統計マニュアル. 医学書院, 東京, p. 147, 1996)
- 4) American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fourth Edition, Text Revision. American Psychiatric Association, Washington, D.C., p. 148, 2000 (高橋三郎, 大野 裕, 染矢俊幸訳: DSM-IV-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル. 医学書院, 東京, p. 152, 2002)
- 5) Au, A., Lau, K.M., Koo, S., et al.: The effects of informal social support on depressive symptoms and life satisfaction in dementia caregivers in Hong Kong (區 美蘭, 劉 錦美, 古 燕玲ほか: 非正式社交支持對香港失智症照顧者身心健康的影響). Hong Kong J Psychiatry, 19; 57-64, 2009
- 6) 医学大辞典: 認知. 医学大辞典, 19版. 南山堂, 東京, p. 1896, 2006
- 7) 吳 秀三: 精神病ノ名義ニ就キテ. 神経学雑誌,

7; 549-553, 1909

8) 日本医事新報: NEWS 痴呆に替え「認知症」
などが提案. 日本医事新報, No. 4183; 74, 2004

9) 日本医事新報: NEWS 痴呆に替わる用語「認
知症」に決定. 日本医事新報, No. 4211; 114, 2005

10) 日本認知症学会誌: 第24回日本痴呆学会総会報
告. Dementia Japan, 19; 320, 2005

11) 日本精神神経学会精神科用語検討委員会編: 精神
神経学用語集 改訂6版. 日本精神神経学会, 東京, 2008

12) 白川 静: 字通. 平凡社, 東京, p. 1077, p. 1441,
1996

13) World Health Organization: International
Statistical Classification of Diseases and Related Health
Problems, Tenth Revision, Vol. 1. World Health Organi-
zation, Geneva, p. 312, 1992

14) 山口成良: 「精神神経学用語集」改訂への討論.
精神経誌, 2006 特別号; S-308, 2006
